

参加が知る

への第一歩

支援が必要な人たちは身近にいるものの、交流のきっかけがなく、支援の仕方がわからない…。互いを知り、認め合うことで助け合いの輪を広げようとイベントが催されています。まずは参加することから始めてみませんか。



1

とも RUN伴 栃木2019

認知症の人と接点がなかった地域の人々と、認知症の人や家族、医療福祉関係者が一緒にタスキをつなぐ。それを通じて、喜びや達成感を共有することで、認知症の人も地域で伴(とも)に暮らす大切な隣人であることを知ってほしい。「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」をスローガンに県内の18市町で開催された「RUN伴栃木2019」。本市では、大田原市と合同で「認知症とともに安心して暮らせる未来へ」がテーマに掲げられ、76人の手によってタスキがゴールまでしっかりつながった。



2



3 1 出発前に参加者やボランティアなど全員でニコリ！ オレンジ色がまぶしい瞬間 2 休憩ポイントで手を振ってランナーを迎える応援団 3 お手製の応援ボードで元気付ける 4 ランナーの名前が書かれたタスキを次の走者へリレー



4

私たちの周りで暮らす高齢者や障害者、認知症の人。近所に住んでいても、施設があってもその人に気付かないことも。交流がないため互いを知らず、マイナスのイメージが持たれてしまいがちです。しかし、互いを知り、ただで、災害時に早い手助けができたり、街で困っている人に救いの手を差し伸べられたりと、「知る」ことは「共生」の第一歩。「知る」そして理解することで互いを認め合えます。それが「安心した暮らし」につながるのです。市内でも、交流を通して互いを知り、理解を深め合う機会を作ろうと、さまざまな催しが行われています。参加するだけで、今までのイメージが大きく変わったり、新たな発見があったり。高齢者も障害者も認知症の人、大人も子どももみくんなが、助け合い励まし合って「共に生きる」社会。その第一歩として、まずは催しに参加してはいかがでしょうか。

第39回 ふれあい広場

互いを理解し合い、仲間となれる「ふれあい広場」。毎年9月の第4土曜日に開催されている。今年も那珂川河畔公園で行われ、39回目を迎えた。会場には、福祉団体の手作り品が並ぶ模擬店や、手話や織織りの体験ブースが軒を連ね、ときに行列ができるほどのにぎわいとなった。ステージではフォークダンスや盆踊りなどが披露され、来場者も一緒になって踊る場面も。

ハンディキャップや年齢に関わらず、多くの人々が互いを励まし合いながらこのイベントを一緒に楽しんだ。



1



2



3

1 手話体験ができる手話サークルのブース。来場した女の子に「ありがとう」と手話で話しかける 2 心を込めて作ったクッキーはいかがですか 3 黒磯中学校のボランティアクラブの皆さんもお手伝い

障害福祉サービス事業所共同販売会

ふれあいマルシェ

～ハートでつなごう♡～

障害福祉サービス事業所でさまざまな製品を日々作っている障害のある仲間たち。彼らが心を込めて作ったパン・クッキー・手芸品・野菜などが所狭しと並びます。

Check!

- ▶ とき 毎月第1火曜 正午～午後1時
- ▶ ところ 市役所本庁舎1階通路
- ▶ 参加団体 ふれあいの森、つくし、心の里、喫茶店ホリデー、ワークス共育、セルフあじさい、ぶらねっと、ファーマニーテトテ、あみすた園
- ▶ 問い合わせ 社会福祉課 ☎0287(62)7026

自ら売り場に立ち、お客を呼び込むなど、毎回活気のある交流が行われている。

